

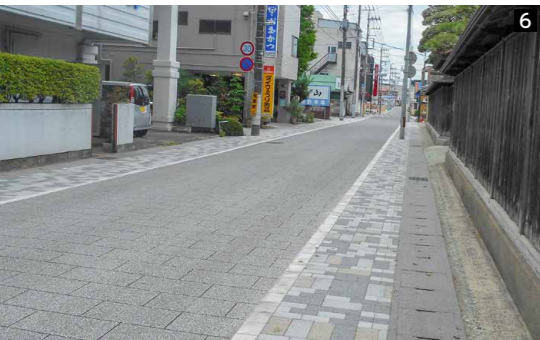


5

1 中心市街地黒磯駅周辺の「顔」である黒磯駅西口広場。ロータリーがきれいに整備され、運用が始まっている 2 現在建設中の(仮称)駅前図書館。黒磯駅近接の好立地で、黒磯駅西口広場と連結される。読書、学習の場としてだけでなく、交流の場としても期待でき、今からオープンが待ち遠しい 3 未整備だった黒磯駅東口にも黒磯駅東口広場が。東西市街地の一体性を持たせるために駐車場や駐輪場が整備された 4 黒磯駅の東口と西口をつなぐ黒磯駅東西連絡通路。東口には、利便性を高めるためのエレベーターが備えられている 5 6 きれいに整備された黒磯駅周辺の道路。景観に配慮された歩行空間となっている



2



6



4



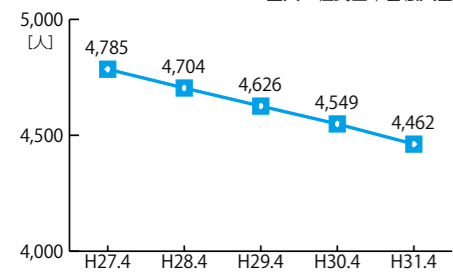
3



1

黒磯駅周辺地区人口推移

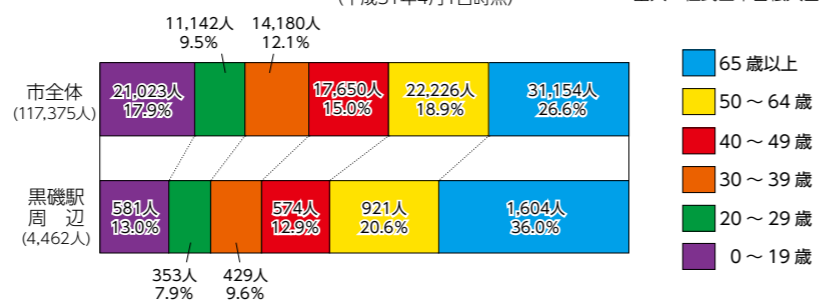
出典：住民基本台帳人口



黒磯駅周辺地区の人口は、直近5年間で323人、約6.8%減少しています。同期間での市全体の人口減少率は約0.8%なので、この地区の人口減少が、いかに急速に進んでいるかがわかります。

本市の年齢別人口
(平成31年4月1日時点)

出典：住民基本台帳人口



黒磯駅周辺地区の65歳以上の高齢者は1,604人、地区総人口の36%です。市全体の高齢者の割合に比べ、高齢化が進んでいることがわかります。また、50～64歳の割合も多いため、今後、さらなる高齢化が懸念されます。

よみがえる黒磯駅前

～進む黒磯駅周辺再生整備～



交通の利便性が高く、住民や観光客が集まり、古くから中心市街地として栄えた黒磯駅周辺地区。しかし、車社会の影響もあり郊外での開発が進んだ結果、空き地や空き家が増加し、人口減少と急速な高齢化が進んでいます。今回は、この地区でかつてのにぎわいを再び取り戻すために行われている、さまざまな取り組みを紹介します。

中心市街地「VINS」6号

市ではこれまで、西那須野駅周辺でそすいスクエアAQUAスなどの拠点や道路整備を行い、那須塩原駅周辺では、生活インフラの整備などを現在も進めています。そして、今、黒磯駅周辺で、かつての中心市街地がにぎわいを取り戻すために官民一体で取り組みを行っています。

旧来からこのまちの中心地として公共交通や商店街、学校、そして大小さまざまな病院などが集まり、私たちの生活に欠かせない役割を果たしてきた黒磯駅周辺地区。しかし、近年の宅地開発や大型店の増加により郊外へ市街地が広がった結果、地区内には空き家が増加し、人口減少が加速。未来に向けての問題が浮き彫りになってきました。

今後、市全体の人口減少が見込まれている中で、人口密度の低い地域が郊外に広がり続けると、道路や下水道などのインフラやバスなど公共交通サービスの維持が難しくなることが予想されています。そこで、便利で快適な生活を続けるために、駅前広場などのインフラ整備をはじめ、交流の拠点を新たに整備することでまちなかへの居住を誘導し、徒歩や自転車で暮らせるコンパクトなまちづくりが進められています。

新たな拠点を中心に再興を

施設を整備するだけでなく、この地区の再興を目指すに当たっては必要だったのは、「対話」です。市と地域住民らが話し合い、整備計画や新設する施設などに対する理解を深めてもらいながら意見を反映。それにより、地域の人たちが主体的に関わり、自分たちの施設として有効利用されれば、地域コミュニティの強化につながるからです。

何度も話し合い、その中で出たさまざまな意見を踏まえながら、景観に配慮した周辺道路の整備や、駅利用者のために利便性を高めた黒磯駅東西口広場の整備、黒磯駅東西連絡通路の改修などが進められてきました。

そのほか、新たに整備されたまちなか交流センター「くるる」がまちの魅力の発信・交流拠点として間もなくプレオープンを迎えます。また、(仮称)駅前図書館が、図書館利用者と観光客との交流の場として黒磯駅前に現在建設中です。

新しく生まれ変わりつつある黒磯駅周辺地区。官民一体となって再興に取り組んでいるこの地区に、皆さんもぜひ、来て、見て、感じて、一緒に盛り上げていきましょう！